

# 6 政策統括官（総合政策担当）

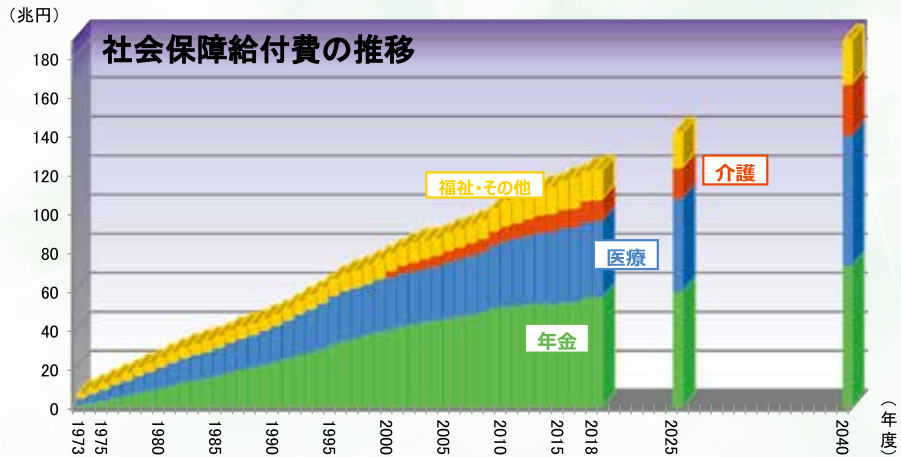
社会保障政策と労働政策については、それぞれの施策ごとのきめ細かい対応に加え、それを一体的にどのように進めていくかという視点が必要です。政策統括官（総合政策担当）は、このような観点から、厚生労働行政が目指す将来の姿を総合的に考える役割を担っています。

## 政策統括室

### 社会保障の将来像を描くための道しるべに

グラフは、年金・医療・介護・福祉といった社会保障に関する国民への給付が過去どのように推移し、また将来どのような規模になるのかを示したものです。高齢化の進展に伴い、社会保障の費用は急速に上昇していきます。その中で、我が国の社会保障が将来どうあるべきか、その財源はどう考えるべきかといった問題を総合的に検討しています。

数理職員は、いくつもの社会保障制度をすべて重ね合わせてこのような社会保障給付費の将来見通しを作成しており、これらの資料は、総理が議長を務める全世代型社会保障検討会議においても基礎資料として取り上げられるなど、社会保障の全体像を描くための重要な役割を果たしています。



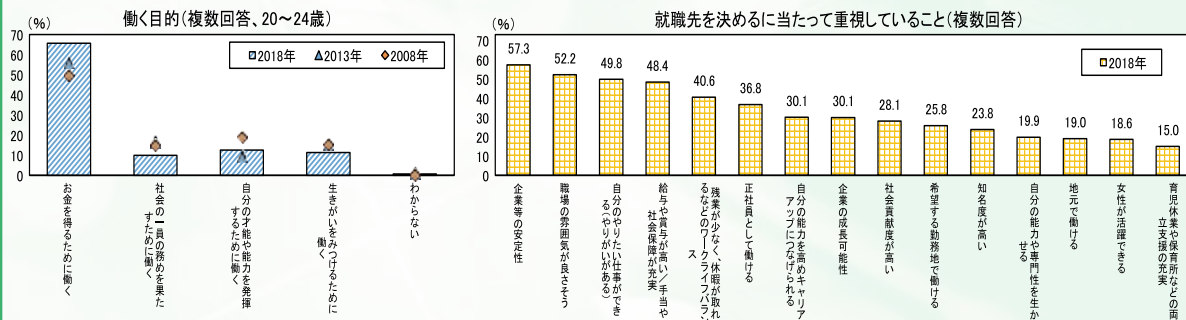
### 戦略的な労働政策、機動的な対策を実施するための労働経済の分析

社会経済構造の変化を的確に捉え、これに対応するため、労働経済情勢についての分析・検討や労働経済白書の作成などを行っています。令和元年版労働経済白書は「人手不足の下での「働き方」をめぐる課題について」というテーマで分析を行っています（下のグラフは「働く目的及び就職先を決めるに当たって重視していること」をみたものです。）。

数理職員は、このような経済分析作業を通じて、労働政策全般に関わる基礎資料の作成にも携わっています。

コラム1-2-④図 働く目的及び就職先を決めるに当たって重視していること

- 20～24歳の働く目的についてみると、「お金を得るために働く」者の割合が経年的に増加している一方で、「生きがいを見つめるために働く」者の割合は、減少傾向にある。
- また、就職先を決めるに当たって重視していることについてみると、「企業等の安定性」「職場の雰囲気良さそう」に次いで、「自分のやりたい仕事ができる（やりがいがある）」を重視する割合も高くなっている。



資料出所 内閣府「国民生活に関する世論調査」「学生の就職・採用活動時期等に関する調査」をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて作成  
 （注）右図は、「就職活動を行った（終了）」「就職活動を行っている（継続している）」「これから就職活動を行う予定である」大学4年生を対象とした値。

（令和元年版労働経済白書より抜粋）